



環境支援士

発行日 2022年9月30日

発行責任者: 滋賀大学「環境学習支援士」会
理事長 橋田卓也
第29号 編集責任者 佐瀬章男

URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~shienshikai425/> Email: shienshikai@yahoo.co.jp

『第14回定期総会と合同研究発表会』

理事長 橋田卓也

総会は、これまでの2年間コロナ禍対応のWEB開催ではなく、滋賀大学大津サテライトプラザで4月16日(土)13時から14時20分で開催しました。総会は、来賓神部教授から「コロナ感染防止の厳しい環境下だが、今年も頑張って活動してください」と挨拶頂き、会員8名と委任状19名で、開催された。1号議案2021年度活動報告、2号議案2022年度運動方針、3号議案2021年度決算報告、4号議案会計監査報告、5号議案2022年度予算案が審議され、運動方針案については活動と方針を具体的に整理して方針にするよう議長より修正指示がありました。6号議案役員改選は、吉川さん、奴賀さんから退任挨拶があり、新たに階元さんが選出されました。他の役員選出では1名の退任の申し出がありましたが本人から撤回されました。1号議案～6号議案を一括して採決し賛成多数で承認されました。

今年度の活動方針は、これまでの環境学習支援士会の活動の基調を2022年度も踏襲していきます。具体的な活動は昨年度と変更ありません。ただし、シンポジウムの開催は、予算の関係上2年に1回とします。以下昨年活動では、第12回シンポジウムは12月4日(土)テーマ「温暖化から琵琶湖の生態系を考える」で、コロナ感染対策と3密対策実施し、会場参加者31人WEB参加者22名で成功裏に終了しました。未来のびわ湖人育成の学習支援は、2021年度の公益財団法人琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成を得て推進しました。年間を通すと昨年より増えて17校の乗船前・後合わせて18回の出前授業を実施しました。乗船後の出前講座は、学校の要望に応える対応で新たな前進を図りました。自然体験活動は、親子の体験講座「身近な川の自然探検」in 細川(金勝川支流)や自然環境塾・大戸川の探検も含め活動の場を広げ成功裏に終了しました。公民館児童の出前講座「虎姫への出前講座」クリスマスリースクラフトを実施しました。私たち環境学習支援士会は、滋賀大学、滋賀県教育委員会、各市教育委員会学校教育課、環境課滋賀県フローティングスクール、琵琶湖博物館環境学習支援センター等の支援・紹介や助成金を得て、学校教師の協力の下県内小学校、レイカディア大学、自治体コミュニティー、学童保育、保育園、企業への出前講座を実施し、延べ200回以上14,000名を超える環境学習支援活動に取り組んできています。

総会終了後、合同研究発表会を14時30分より35名の参加者で同じ会場で開催、レイカディア大学41期42期卒業生3名、滋賀大学「環境学習支援士会」会員2名からの発表がありました。終了後活発な意見交換を実施し発表者と参加者30名が参加して交流を広げ成功裏に終了しました。



「びわ湖フローティングスクール第Ⅲ期指導計画作成会議」

下山健二

2022年8月17日(水)に滋賀県大津合同庁舎、7階会議室にて、午前の部(10:00~11:30)と午後の部(14:00~15:30)に分かれて開催されました。対象校は合計80校(午前40校、午後40校)で、第Ⅲ期に航海する先生が出席されました。今年もコロナ禍第7波の最中で基本的な対策を実施して行われ、出来るだけ密を避け、マスク着用で実施して会議を開催しました。今回は午前の部に橋田、下山の

会
員が、午後の部には佐瀬、前田の会員が出席しました。主催者側からは、所長の挨拶に引き続き、担当者が教育理念や業務計画、指導計画作成要領、提出書類などを説明し、又2日日程を中心に説明されました、しかし、今年度もコロナの状況から1日日程になるとのことです。説明後、先生方は同時乗船校との打ち合わせに入り、熱心に進め方をFSの指導者と調整をされていました。その中で支援士会として、出前講座として、乗船前、乗船後について、「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」を行っている旨を先生方にご説明し広報を行いました。それに伴い、依頼書の提出をお願いいたしました。この広報を通じて、今後出前講座の依頼が来ることを期待します。



「春の自然観察会について」

階元謙一

自然観察とハイキングを兼ねた場所として検討した結果、草津川の上流にある近江湖南アルプス自然休養林(一丈野地区)の森林を観察しながら、散策することに決定しました。

地元をよくご存じの成子会員にアドバイスを頂きながら、下見を行い、高低差の少ないフラットな道で、4時間程度で歩けるルートを選定しました。

上桐生バス停(10時)集合し、オランダ堰堤から逆さ観音、一丈管理棟を見学し、桐生キャンプ場で昼食して、たまみずの道から一丈野駐車場(14時)までのルートとしました。

日時は、6月19日(木)、10時~14時に決め、会員に実施内容をメールで案内しました。

当日は、6名の会員の参加があり、好天に恵まれ、樹木を見ながら近江湖南アルプス自然教養林を散策しました。

まず、上桐生バス停から川沿いを約20分間歩き、オランダ堰堤に到着し、明治時代に造られたオランダ人デ・レーテ指導による切石布積みアーチ式堰堤砂防施設を見学しました。現在も貯砂機能を現役で果たしています。

次に、30分間程度歩いて逆さ観音を見学しました。鎌倉時代に阿弥陀三尊が摩崖仏として彫られ、後年にダム用石を採掘の際、摩崖仏の背後が削り取られ、転倒し、逆さになったと言われています。山の傾斜の途中に、今にも落ちそうな状態で止まっています。

更に30分間散策して、一丈野管理棟で設置された当時の写真パネルを見て、桐生キャンプ場で昼食にし



ました。休日にはキャンプやバーベキューを行う若い家族連れでにぎやかになるそうです。当日は人手も少なく、静かでした。

昼食後にたまみずの道、2.5kmをゆっくり散策しました。

この道は、ユニバーサルデザインの手法で設計された遊歩道です。段差を無くし、簡易な舗装を施しているため、車いすやベビーカーでも森林浴が楽しめます。また、琵琶湖や比叡山が眺望できる場所、ベンチなどの休憩施設、樹木名クイズ板などが設置してあり、自然観察が楽しめる場所になっています。タマミズキ、クリ、ネジキ、リョウブ、ガンピ、ヒサカキなどの多くの樹木や花、実を観察することができました。

久しぶりのハイキングでやや疲れましたが、心地よい汗をかきながら、森林浴や自然観察と楽しい1日を過ごすことができました。

「新規助成金を含め 4～5月の申請の結果報告」

橋田卓也

1.公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構「琵琶湖・淀川子ども水質保全活動助成」

2022年度助成金申請応募受付5月15日まで(申請年度最後の3年目に当たる)「未来のびわ湖人育成出前講座」「ワクワク環境塾・親子の金勝川探検」「自然環境塾・大戸川」が活動内容です。

令和4年6月3日採択される助成金額 100,000円

2.みずほ福祉教育助成金 第39回「老後を豊かにするボランティア活動資金助成事業 締切り5/10

ボランティア活動において、継続的に使用する用具を助成します。下記表を申請

当会希望する用具・機器(メーカー・型番)	単価(円)	個数	金額(円)
ノートパソコン hp 54HPA-AAAB	10,4800	1台	104,800
ファックス KX-PZ3100DL	21,870	1台	21,870

令和4年 助成金採択、助成金額 90,000円 (購入資金パソコンのみ、ファックスは除く)

3.トムソーヤ助成金締切り(上限10万円) 結果不採決 残念賞日清チキンラーメン 30食

小中学生が概ね10人程度参加する自然の中での体験活動であれば、ジャンルは問いませんが、ユニークさと創造性にあふれ、高い教育効果が得られる活動とします。今回の不採択でトムソーヤ助成金は、当会が申請した活動人数・規模と合致しないことが分かりました。

「愛荘町立秦荘東小学校出前講座」(今年度第1回:4月26日)

前田雅彦

今まで行った出前講座で、一番の田舎町と感じた。愛知郡愛荘町は湖東三山の金剛輪寺の近くにあり、昔から結構栄えていた町である。秦荘東小学校はそのような町にあり、1学年平均2クラスの小規模校である。比較的びわ湖から離れていることもあって、びわ湖を見たことがない子供もいた。私たちが行くということもあって、子供たちは事前にびわ湖について調べて勉強している様子で、大変熱心に聞いてくれた。また、ワークショップでの感想・意見もたくさん書いてくれた。この学校のように比較的びわ湖から離れた学校のほうが、我々の出前講座の意義があると感じた。子供たちはまじめで、私の話を食い入るように聞いてくれた。また質問の時間でも、私のほうがたじたじとなるほどいろいろな質問が出た。このような学校に行くと、我々がやっている出前講座の大切さを実感できるのではないかと思う。私たちがやっている授業はわずか2時間の講義であるが、子供たちにとっては新鮮で有意義のある授業にしなければと感じる。子供たちとの接点がとても楽しいので、今後もこの出前授業を続けたいと考えている。

「出前講座を彦根市校長会へ初めてのPR」

橋田卓也

6月1日彦根市教育委員会 WEB 室で、彦根市立小学校校長会へ「うみのこ」の出前講座「未来のびわ湖人育成のための出前講座」を広報しました。広報内容は、出前講座の歴史とその改善内容、現在の

コンセプトを中心とするものです。びわ湖の環境を学び、びわ湖を愛し、次の世代に残していくために、自分で考え行動するびわ湖人へと成長していくための学習支援です。

出前講座のスタートは、2012 年彦根ロータリークラブ 60 周年記念事業として、社会奉仕委員長大館さんから、びわ湖について、「県内地域への広がり」と「継続性」考慮した講座内容の依頼を受けました。その後、彦根教育委員会教育長前川さんとロータリクラブと協議されて 2012 年から 13 年「自然と人間と共生～びわ湖の今と昔を学び未来を考える」というテーマで、彦根市立小学校 10 数校で実施しました。これをスタートに、私たちは、県内地域への広がり、継続性という課題を持ち 90 校 186 回 13200 名へ講座を実施し、先生方のアンケート結果をもとに、講座内容を改善させました。

乗船前出前講座は、「びわ湖の今・昔・これから」と「びわ湖の未来を考える」で、子どもたち一人一人が、興味が違って、新しい発見あったと思います。びわ湖の問題を知り、自分たちの、課題をもって乗船できます。

乗船後の出前講座は、小学校からの要望に対応してテーマを決めて講座と WS を行います。児童は、びわ湖の課題のまとめるに当たり自分たちが出来る取組について考えようとする探究意欲につながります。最後に、令和 4 年度の出前講座の申込申請書を紹介しました。

「山東小学校・余呉小中学校出前講座」

佐瀬章男

6 月 16 日朝 8 時 30 分自宅発、1 日の行程が長いので、名神高速道路経由米原インターチェンジで降りて、山東小学校に向かいました。ちょうどこの日は余呉小中学校からも出前講座の依頼があり、どちらも 1 クラスであったことから私が車を利用して 2 校を担当することになりました。山東小学校は有名な三島池の近くにある地元に密着した静かな学校でした。大橋校長先生も出前講座に参加いただき、この出前講座は大変良いとおっしゃいました。少し遠い学校ですがこれからも出前講座の依頼が期待できると思います。20 名の 5 年生も佐々木先生と熱心に出前講座を受けてくれました。4 時間目が終わって



(山東小学校入り口の掲示板)



(山東小学校の出前講座)

から途中のコンビニで昼食を購入し約 40 キロ北にある余呉小中学校に向かいました。学校についてから昼食を食べ、すぐに 5・6 時間目の出前講座を実施しました。この学校は以前は小学校と中学校は別々でしたが、5 年ほど前に合併し今では小中学校という名称になっています。

校長の奈須先生は不在でしたが、日川先生の担当する 5 年生は 16 名元気に出前講座を受講してくれました。どちらの学校も静かな里山の環境にあり、子ども達が自然の中ですくすく育っている様子が感じられて、とても元気をもらいました。6 時間目の授業が



(余呉小中学校出前講座)

終ってから帰路は湖岸道路を經由して一般道で自宅まで帰りました。

約 200 キロの走行距離、長い距離でしたが、遠隔地の 2 つの学校を初めて訪れ充実した一日でした。

「わくわく環境塾—細川探検—夏休み川の学習」

佐瀬章男

今年の金勝川(細川)の自然体験学習は予定通り 8 月 20 日の土曜日に開催しました。

いつも実施している金勝小学校グラウンドのすぐ裏は、今年春先すっかり草刈が行われほとんど、草むらがなくなっていて、この場所で生物採集ができるか事前調査では不安でした。栗東市の環境政策課と実施した 8 月 9 日(火)午前中の事前の草刈では、思ったよりも生物も確認できたこと、またほかの地点で生物採集をするには非常に草刈が大変なことなどから、当初の予定通りグラウンド裏の河原で実施することにしました。前日の準備のおかげで当日の受付は順調に進みました。残念ながら今年は開催日が夏休みの後半になったことの影響で、参加者が思ったより少なくなりました。参加者は 14 家族 37 名でした。

例年は栗東市役所で事前に抽選会を実施して参加者を決めていたのですが、今年は応募者全員が参加 OK となりました。

例年通り金勝コミュニティセンターの大教室で開会式を実施した後、会場の細川に向かい二班に分かれて水質調査と生物採集を交代で実施しました。

水質調査は栗東市の環境政策課が担当して、生物採集は当会が担当しました。

ドンコやカワムツの稚魚、カワニナ、アメリカザリガニ等が取れて、子ども達だけでなく、一緒に川で活動したお父さんやお母さんも大喜びでした。

8 月の後半であったせいか暑さは思ったほどでなく時間通り現地での自然体験学習を終了し、11 時 30 分からは元の大教室に戻ってまとめの学習と閉会式を実施しました。

アンケートや感想はほぼ例年通りでしたが、残念ながら生物採集の河原の底がほとんど砂地になっていたため、石の下の生物はほとんど観察・採集できませんでした。猛暑を避けての 8 月後半の実施日でしたが、このままこの日程で継続するかについては再度検討の余地があります。



「琵琶湖淀川水質保全機構助成報告会」

佐瀬章男

8 月 30 日(火)午後大阪にて琵琶湖淀川水質保全機構助成報告会が開催されました。大阪の天満橋にある男女共同参画センター(ドーンセンター)にて 14 時から 16 時過ぎまで各団体の報告が行われま

した。当会からは橋田理事長、前田理事、佐瀬の三人が出席しました。この助成金はこども環境保全活動助成で、助成金を受けているのはほとんど中学校や高等学校で、当会のような会員がシニアで構成する団体が助成を受けているのは唯一でした。各団体の報告のあと最後に橋田理事長が滋賀県内での「うみのこ」の乗船前・後の出前講座について報告しました。発表時間が 10 分ということで時間的には不

足気味でしたが活動の内容や成果は参加者や琵琶湖淀川水質保全機構には十分に伝わったと思いました。

最後に講評がありましたが、当会の活動は3年間の助成期間を終わってはいるが、発展的に活動継続して欲しいということでした。2年半ぶりに大阪に行きましたが、その間に街の様子が少し変わったように感じました。帰りに大阪駅の西口にて3人でビールを飲んでから帰宅しました。

「自然環境塾—川の学校—大戸川学習」



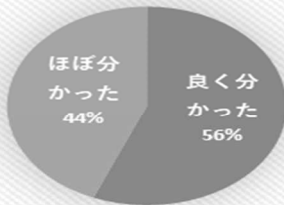
竹田龍弘

レイカディア大学びわこ環境学科 42 期を卒業してから滋賀大学環境学習支援士会でお世話になっています。今までに3~4回ぐらい河川の水質調査及び生き物調査を中心とする活動に同行させていただきました。生き物調査では、今までゴムの胴長を履いたことがなく、真夏の活動では、大変暑くてバテそうでした。階元さんにいろいろ教わり回を重ねるうちに慣れて要領も解ってきました。活動を通して思うことは、今の子供たちが川遊びなどをあまりやることがないということ、近くに川遊びをする所がなく、従って 川に入った時や生き物をとったときの感動(ワァー!ワァー!キャッ!キャッ!)がすごく、これには大変びっくりしました。子供たちが目を輝かせて調査、採集している姿を見ていると私も感動します。子供たちのそんな姿を目の当たりにして支援士会の会員として活動していることが、子供たちのために役に立っていることを確信しました。今後もこのような感動の場を子供たちに数多く提供できるよう活動を続けたいと思います。中々まとまってませんが、こんなところが支援士会会員一年生として感じ思うところ です。実施日 9月10日開催されました。参加者 14 家族 37 名の参加でした。

220910 大戸川アンケート集計(注2名回答なし)児童18名

	水の水質測定は 分かりましたか	たも網調査は おもしろかった	石の付着生物調査 は分かりましたか	班別のまとめはよ かったですか (大ホールでの)
1 よくわかった	9	16	8	13
2 ほぼわかった	7		6	3
3 わかりにくかった			2	

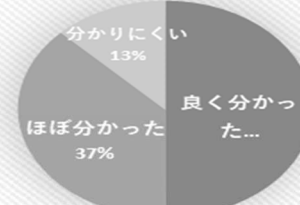
1,水質調査は



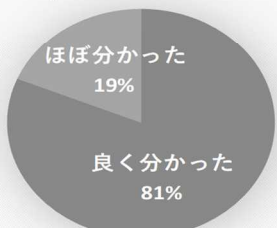
2,たも網調査は



3,調査石付着生物は



質問4,まとめ学習は



- 良く分かった、楽しかった
- ほぼ分かった、ふつう
- 分かりにくい、楽しくない



2022 年度上期「うみのこ」出前講座実績一覧

	受付日	学校名	希望/又は実施日	時限	乗船予定	組数	担当講師	
1	4月7日	野洲市北野小	9月12日	3・4	9月6日	3	橋田,下山,佐瀬	PC又はSD
2	4月9日	近江八幡市老蘇小	12/6,12/1,12/2	3・4	12月14日	1	三田村,	
3	4月12日	彦根市城南小	6/14, (希望日でないが了解得る)	3・4	7月6日	4c 115名	橋田、三田村, 下山、前田	USBは Lineに
4	4月13日	愛荘町秦荘東小	4/27,	5・6	6月24日	2	橋田、前田	
5	4月14日	長浜市小谷小	5/19	5・6	6月29日	1c-15	佐瀬	5/19徒歩
6	4月15日	長浜市余呉小中	6月16日	5・6	6月28日	1c-16	佐瀬	6/16車で
7	4月19日	長浜市南郷里小	5/12,	3・4	6月29日	3c-108	橋田,前田, 佐瀬	USBはOK
8	4月20日	米原市山東小	6月16日	2・3⇒ 3・4	6月29日	1c-20	佐瀬	PC持参
9	4月21日	彦根市亀山小	9/2,	3・4	9月7日	1	三田村,	USBはOK
10	4月26日	栗東市金勝小	6/2,	2・3⇒ 3・4	8月26日	2	下山,佐瀬, (階元)	USBはOK
11	5月11日	彦根市城西小	6月7日	3・4⇒ 5・6	7月6日	2c-66	橋田	
12	5月20日	大津市平野小	6/29,	3・4	8月23・24	5c-173	三田村,橋田,前田, 佐瀬,下山	USBはOK
13	5月27日	草津市草津小	7/6,	1・2	8月31日	3c-103	橋田,前田,佐瀬	USBはOK
14	6月9日	大津市田上小	7/13,	3・4	6月19日	2c-72	前田、佐瀬	USBはOK
15	6月12日	湖南市水戸小	7/19(PM)	5・6	10月4日	2c-51	橋田・佐瀬	USB不可
16	8月5日	彦根市佐和山小	9/16,	3・4	11月18日	3c-98	橋田,下山,佐瀬	USBはOK
17	8月26日	栗東市大宝東小	11月2日	3・4	12月7日	2c-62	橋田、前田	
18	8月26日	東近江市能登川北小	10/20,	2・3又 は5・6	6月済	1c-10	橋田	
19	8月28日	大津市田上小	9月14日	1~4	6月19日	2c-72	会員8名	

温暖化防止部会の活動内容(2022年4月～2022年9月)

文責 橋本繁

毎月の定例会では、地球温暖化に関連したテーマを取り上げて、各担当者がそのテーマについての話題提供を行い、会員との自由闊達な議論を行い、問題がどこに有るのか、解決策はどうすれば良いのかの議論を行った。このことを通じて、地球温暖化の今日的課題を把握すると同時に、議論を通じて部員の老化防止につなげたいと考えている。緩和策と適応策のアプローチは今までと同じである。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大と会員の健康問題から、会合が思うように出来なかった。

9月上旬に、会員の斎藤氏が逝去された。滋賀大学農園での近隣の住民参加による野菜栽培体験学習、NPO気候ネットワーク支援による「あゆっこエコチャレンジ」の作成と小学校での実施(1校のみ)、岩谷産業での水素製造の現場確認、水月湖での年縞確認など色々な事を企画・実施された。

【緩和策】

○「究極の充電式電池ーリチウム空気電池開発に迫る」(2022年4月)

空気電池とは、正極活物質に空気中の酸素を用いるもの。プラス極の活物質が空気中の酸素であることから、活物質を充填する必要がなくなり、マイナス極物質である金属を電池内で大量に補充しておくことができる。最新の研究開発を行っている物質・材料研究機構(NIMS)の研究開発の例の報告があり、議論を深めた。

○「COP26、真鍋博士ノーベル賞受賞、IPCC 報告書」(2022年5月)

グラスゴーで行われた(2021年11月)COP26 合意文書の内容を確認。気温の上昇幅を1.5度に抑える事を決意。真鍋博士のノーベル賞受賞の研究内容の紹介。力学を通じて地球の気候を研究し、二酸化炭素が2倍になると、地球の温度を2℃上がることを予測した。

○「ビヨンドゼロについて」(2022年9月)

2050年カーボンニュートラルに向けて、過去のストックベースでの二酸化炭素削減を行う為には、技術革新が必須である。その技術革新について二酸化炭素の資源化、大気からの二酸化炭素の分離・回収について話題提供と議論を実施。

編集後記

新型コロナウイルス感染は第7波が峠を越えたかにみえるが、冬を迎えて第8波が心配されている。世界の感染状況を見ると、日本は第9位に上がってまだ不名誉な上位に上がっていきそうな気配だ。世界の主要国と比較して、日本では新型コロナの保菌率が、まだ他の国に比較して少ないのが感染者の減少しない原因などと言われているが、これからの推移を見守ることしかないようである。

さて4月から9月までの活動は、「うみのこ」の出前講座をはじめとして、機関誌の本文で紹介したように、ほぼ順調に消化できた。例年11月下旬から12月上旬に実施してきた「環境シンポジウム」は諸般の事情で今年は開催を休止して24年度に実施することとなった。

この下期は例年「うみのこ」出前講座の申請が多くきているが、さて今年はどうだろうか。

機関誌に投稿していただいた、会員各位には感謝しつつ、引き続きの投稿をお待ちしたい。

滋賀大学「環境学習支援士」会 〒520-0862 大津市平津 2-5-1(滋賀大学教育学部内) TEL/FAX:077-537-7821